

打ち言葉における三点リーダー使用の分析

——伝え手の感情と使用意図について——

酒井 拓人*

本稿の目的は、伝え手がどのような感情や意図を持って三点リーダーを使用しているかを明らかにすることである。本研究では、大学生を対象に回答を求め、117例の三点リーダー使用例を分析した。その結果、伝え手は三点リーダーを用いて様々な感情を表現していることが明らかになった。また、伝え手は「感情を察してほしい」、「発言を和らげる、ぼかす、断言を避ける」、「考えた時間を表す」などの意図で三点リーダーを付与していること、場合によっては特に意味や意図なく三点リーダーを付与していることが明らかになった。

キーワード：打ち言葉、三点リーダー、感情、意図、自己呈示

I. はじめに

携帯電話やスマートフォン、インターネットの普及により、近年ではコンピュータを介したコミュニケーション (computer mediated communication: CMC) が日常生活において欠かせないものとなってきた。また、昨今の新型コロナウイルス感染対策として実際に対面して会話をする機会が減少し、CMCを利用する機会が増えている。ビデオ会話も用いられるもののテキスト会話の比重は高い。

電子メールや電子掲示板、SNSなど、インターネット上でのテキストによるコミュニケーションにおいて使われる言語表現については、従来の書き言葉とは異なり話し言葉的な要素を含んでいることが指摘されている (三宅, 2005)。このような話し言葉的な書き言葉は、キーボードなどのような入力機器によって「打って」表されるため、近年では「打ち言葉」とも呼ばれている。(田中, 2014; 文化庁, 2018)。打ち言葉は、書き言葉と同様に文字によるコミュニケーションであるため、対話相手の表情や声の調子といった非言語的な情報が欠落している。それを「補うために顔文字や絵文字といった代替手段が発達して」(文化庁, 2018)

きた。また、話し言葉のようにくだけた表現が用いられることも特徴である。

これまでの打ち言葉研究では、主に顔文字や絵文字などに着目したものが多く見受けられる (e.g. 三宅, 2005; 荒川・鈴木, 2004)。これに対して本研究では、打ち言葉によるコミュニケーション場面で使用される三点リーダー (….) について着目する。そして、伝え手がどのような感情と使用意図を持って三点リーダーを使用しているかについて明らかにすることを目指す。

II. 先行研究

1. 三点リーダー

印刷の際には文章を区切ったり省略や強調などを示したりするために、約物と呼ばれる記号が用いられる (記号の事典)。リーダーとはその約物の一種であり、「目次や索引などの組版で視線を導いて読みやすくするための点線」(印刷事典)である。そのなかでも3つの連なる点から構成されているのが三点リーダーである。「三点リーダ」「三連点」「てんてん」(句読点、記号・符号活用事典。), 「テンセン」(文部省) と呼ばれる場合もあるが、本稿では三点リーダーと呼称する。

* 愛知学院大学心理学部心理学科
(連絡先) 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12 E-mail: tsakai@dpc.agu.ac.jp

三点リーダーはインターネット掲示板や電子メール、SNSでは、読点「、、、」や句点「。。。」、中黒「・・・」の三連続で代用される場合もある（句読点、記号・符号活用事典。；野田、2014）。

実際に三点リーダーはどのように使われているだろうか。公用文や新聞など公の文章における三点リーダーの用法については、省庁や新聞社などが以下のように用例を示している。文部省教科書局調査課国語調査室（1946）が各種文書などの表記基準についてまとめた「くざり符号の使ひ方〔句読法〕（案）」において、三点リーダーは以下のような規則で用いるとされている。①「ナカセンと同じく、話頭をかかずときや言いさしてやめる場合などに用いる」。②「引用文の省略（上略・中略・下略）を示す」。③「会話で無言を示す」。④「つなぎに用いる」。また、『記者ハンドブック』（共同通信社、2001）や『最新用字用語ブック』（時事通信社、2023）においては、三点リーダーは「言葉の省略」、「無言を表す」、「間を持たせる」の3点の用法が示されている。

小説や広告などの文章における三点リーダーの用法については、様々なものが挙げられている。安井（2006）は、谷崎潤一郎の小説『細雪』における三点リーダーの用法を分析し、「言いよどみ」、ダッシュより長い間を表現する「間隙」、ダッシュにはない用法として「無言」を挙げている。また、「句読点、記号・符号活用辞典。」（小学館辞典編集部、2007）では、以下の8つの用法が挙げられている（表1）。

新實（2019）は、小説における登場人物のセリフ中で三点リーダーが用いられる位置について考察している。三点リーダーは必ずしも発話の語尾にすぐ置かれるというわけではなく、発話の前に置かれる場合や句読点で句切られたあとに置かれる場合、また三点リーダーのみでセリフが構成される場合もあるとしてい

る。

以上をまとめると、いわゆる書き言葉における三点リーダーは、文などをつなぐというリーダーのそもそもの役割に加えて、言いよどみ、無言、間があることの表現や言葉や文の省略などで使われていることがわかる。

2. 「三点リーダー症候群」なる病

さて、この三点リーダーの用法について近年では話題となる場面があった。発端は『語尾が「…」ばかり「三点リーダー症候群」相手のせいにするズルさも』（女性セブン2021年1月28日号）という記事が掲載されたことだ。

リモートワークにより、LINEやメールといった文章でのやり取りが増えたことで、大山さんの上司のように語尾を「…」でぼかして曖昧な言い回しをする人が増えているという。こういった人たちは「三点リーダー症候群」と呼ばれ、相手を困らせ、やり取りに手間がかかるのが共通点だ。

（中略）「三点リーダーというのは、本来は『ほかにも、もっとたくさんありますよ』といった余韻を表現する記号です。お悔やみの言葉など、言葉に詰まっているニュアンスを表すことや、言いづらいことを濁すという機能もあります。表現を広げてくれる便利な記号ですが、便利さを逆手にとって、『相手に察してほしい』とか『相手の提案を待つ』といった、ズルい魂胆で使う人もいるのでしょう」

（中略）適度に三点リーダーを織り交ぜた方が、テンポがマイルドになることもあります」（石原さん）

とはいえ、使えば使うほど「はっきりしない人」

表1
『句読点、記号・符号活用辞典。』による三点リーダーの使用例

-
- ①会話文や一人称的な表白で、発言・思考の中断、言いよどみ、無言などを表す。
 - ②文末において余韻や含みを持たせる。
 - ③文頭や段落冒頭において、文章に間を持たせる。全文、前段からの話題・視点転換や時間的経過などを唐突でないようにみせたり、そこに思い入れを込めたりする効果がある。
 - ④以下同様に続くことや、そこに上げたものにとどまらないことを示す。
 - ⑤省略した箇所、また、欠文・判読不能などの箇所を示す。
 - ⑥…で示した箇所に任意の語や文字が入ることを示す。
 - ⑦伏字に使われる。第二次大戦以前、検閲を考慮して比較的長い部分をまとめて伏字にする場合に使われた。
 - ⑧見出しや事項と、その内容・説明をつなぐ。
-

の印象が強くなるため、やはりビジネスの場ではなるべく避けた方がいいだろう。

(女性セブン, 2021)

この記事の掲載とほぼ同時期に、テレビ『ワイドナショー』（フジテレビ系, 2021年1月31日放送）においてもこの三点リーダー症候群が特集された。また、その放送を受け、Twitter上で「三点リーダー症候群」が一時トレンド入りを果たしている。これを受けてか、検索サイト Google における「三点リーダー」の検索回数も2021年1月31日から2月6日にかけて急上昇し世間の注目を集めた。

さらに、三点リーダーに対するこの一時的な話題の高まりから1か月ほど期間は空いたものの、大手新聞紙においても『三点リーダー症候群です…。』（日本経済新聞 2021年2月27日夕刊, 「プロムナード」, 足立 紳『三点リーダー症候群です…。』）というタイトルのコラムが掲載された。脚本家であるコラムの筆者は以下のように述べている。

三点リーダー症候群というものがあるらしい。相手にメールなどを送るときに文末に「…」をつ

けることで何かをあいまいにして、自分は安全圏にしながら決定を相手に任せるようなニュアンスなのだという。

(中略) だから「…」を利用することで、謙虚さを強調しつつ、「どうかハードルを下げて読んでください。面白くないかもしれないですからね…」と前もって伝えるのだ。この気持ちを伝えるのに「…」は必須であり、…

(中略) だから「…」を使うのはせめてもの罪滅ぼしのような意味もあったのだが、それが「うざい」「姑息」「狡い」と言われている空気はなんとなくは感じていなので、近頃は「…」の代わりに「。。」を愛用するようになっていた。(中略) お前の「…」はもう見飽きたんだよ！と言われてしまいそうだが、「。。」のほうだとちょっとかわいいというのかほっこりするというようなニュアンスになるような気がする。

(足立, 2021)

以上のように、打ち言葉コミュニケーションにおける三点リーダーの使用（多用）が、相手にネガティブな印象を与えている可能性が示唆されている。伝え手

図1 Google における「三点リーダー」の検索度数



注) データは2024年1月現在。最も検索された2021年2月の度数が100である。なお、2021年1月の度数は76、3月は31であった。

は特定の感情等をほのめかそうとして三点リーダーを使用しているが、ほのめかして表現することが好意的に受け取られない。つまりそれが「症候群」というネガティブな表現につながっていることがうかがえる。

3. 三点リーダーについての先行研究

吉川 (2021) は2011年から2019年までの隔年5年間分のTwitterのツイートを計5万件抽出し、文末記号の使用状況の割合の変化などを調査した。その結果、三点リーダー並びにダッシュは全体の約5～8%ほどで使われていたこと、また三点リーダーは句点や顔文字などと組み合わせて使われる場合もあることが明らかになった。疑問符(?)や感嘆符(!)、絵文字や顔文字ほど多用されているわけではないものの、三点リーダーがSNS等のコミュニケーションにおいて一定の頻度で使用されていることがうかがえる。しかしながら三点リーダーに関して、小説における用法について検討した研究がいくつか確認できるとはいえ、打ち言葉によるコミュニケーションでの三点リーダーについて検討した研究は少数しか確認できなかった。

鈴木・津田 (2007) は、インターネット上のユーザーサポート用掲示板で出現した三点リーダーを含む文について、コンピュータによる感情推定手法を検討している。鈴木らは、三点リーダーを含む文から感情を推定するための分類ルールを構築した結果、三点リーダーは、「①文末を省略せずに余韻を残す、②文末を省略して相手に自分の感情を推測させる、③行動を表す」、という3タイプの感情に大別することができる」と主張している。

稗田 (2022) は、SNSを用いた勧誘談話において、日本語話者とマレー語話者を比較している。三点リーダーについては、日本語話者よりもマレー語話者の方が多く使用していたことが明らかになった。三点リーダーの用法については、日本語話者は「言いさし」という用いられ方が、マレー語話者では「誘いを控え目にする」こと目的とした用いられ方がみられた。

4. 三点リーダーについての先行研究

以上のように、打ち言葉における三点リーダーについて検討した研究は、三点リーダーが付加された文章に含まれる伝え手の感情等を推定しているが、感情等を直接伝え手に確認したわけではない。そこで本研究では、伝え手がどのような感情などをもって三点リーダーを使用しているかを直接明らかにすることを目的とした。

III. 方法

調査参加者 中部地方にある大学の大学生並びに大学院生計65名 (男性24名, 女性41名, 平均年齢19.51歳, $SD = 1.87$)

調査実施時期 2021年7月および2022年1月

手続き 大学の講義時間内を利用し調査協力を求めた。7月実施時は質問紙, 1月実施時はGoogleフォームを用いて行った。調査協力者には、実際に使用したもしくは見たことがある三点リーダーを含む文章について、「誰との会話・どんな場面で」、「どのような文章であったか」、また「そのときの気持ちや考え、感情」を、自由記述で回答するよう求めた。調査への参加は任意とし、回答の提出をもって調査協力を同意したとみなした。回答期間は、7月実施時は翌週の講義までの1週間, 1月実施時は参加者が自発的に自由に回答できるよう時間に余裕を持たせたため1ヶ月間であった。

IV. 結果

収集できた用例は全部で118件であった。このうち、三点リーダーについて回答していなかった1件を除いた117件の用例について分析した。

1. 三点リーダーで表される感情について

伝え手がどのような感情を持って三点リーダーを使用しているかについて、収集した用例を鈴木・津田 (2007) の感情分類を参考に、筆者と公認心理師の資格を持つ協力者3名との合議で分類を行った。三点リーダーを用いたときの気持ちや感情について記載がなかったものは、4名全員の意見が一致するまで話し合ってから分類した。また、鈴木・津田 (2007) の分類にはなかった感情として、「あきらめ」、「うらやましき (羨望)」を追加した。表2に各感情の出現頻度を示す。分類を行った結果、三点リーダーを使って様々な感情が表現されていることが明らかになった。その中でも、「謝罪」が14件 (11.97%) と一番多く、次に「受容」が13件 (11.11%)、「悲しみ」(8.55%)、「驚き」が9件 (7.69%) と続いた。

2. 三点リーダーを使う意図について

本調査では三点リーダーを用いたときの感情だけでなく「考え」、すなわち伝え手がどのような意図をもって三点リーダーを使用しているかについても回答が

表2
三点リーダー文で表現された感情（全117例）

感情	頻度	割合	感情	頻度	割合	感情	頻度	割合
謝罪	14	11.97%	嬉しさ	5	4.27%	焦り	1	0.85%
受容	13	11.11%	問いかけ	4	3.42%	怒り	1	0.85%
悲しみ	10	8.55%	困惑	3	2.56%	動揺	1	0.85%
驚き	9	7.69%	呆れ	2	1.71%	悲哀	1	0.85%
期待	7	5.98%	挨拶	2	1.71%	記載不備により 分類不可	1	0.85%
拒絶	7	5.98%	依頼	2	1.71%	嫌悪	1	0.85%
落胆	7	5.98%	うらやましい (羨望)	2	1.71%	迷い	1	0.85%
自信なし	6	5.13%	疲労	2	1.71%	話題転換	1	0.85%
不安	6	5.13%	余韻	2	1.71%			
愛	5	4.27%	あきらめ	1	0.85%			

得られた。そこで、この点についても分類を行った。得られた用例は、「用例」（媒体／会話の場面／使用意図）の順で示す。媒体や場面の回答がなかったものは、そのまま記載を省略した。また、質問紙から得られた回答で誤字があったものは、筆者のわかる範囲で修正して記載した。

第一に、伝え手の意図として、「感情を察してほしい」というものが挙げられる。

- (1) 「〇〇なんだよね…」(LINE／自分があまり乗り気ではない時に、本当はいやなこと気づいてほしい意味を込める)
- (2) 「3泊もするのちょっとお金ないかも…」(LINE／友達と旅行の計画のやり取り／申し訳ない気持ちと、それならどうしたらいいか察して欲しい気持ち)
- (3) 「自分たちのも買ってきてほしい…」(願う時にすこし…を入れることで悲しい感情を演出させる。)
- (4) 「こちらの確認不足でしたら申し訳ありません…」(実際には連絡を貰ってないため、申し訳なさを演出しつつ、先方に確認をしてもらいたい)

IV-1 で見てきたように、伝え手は様々な感情を持って三点リーダーを使用している。伝え手は三点リーダーをあえて文末につけることで自分はこのような感情をもっているのだということを受け手に汲んでもら

いたい、察してもらいたいという意図があることがわかる。また、(3)、(4)のように、伝え手が「感情を演出する」という場合もある。これらの用例では、伝え手が自ら積極的、あるいは作為的に感情を演出し、受け手にそれを分かってもらおうとしている。(1)、(2)と比べると、より自己呈示的な意図があることがうかがえる。

これらの意図は、鈴木・津田(2007)による分類の①タイプ(「文末を省略せずに余韻を残す」)、②タイプ(「文末を省略して相手に自分の感情を推測させる」)に対応すると考えられる。ただし、これら用例を見ればわかるように、相手に自分の感情を推測させる(②タイプ)ために必ずしも三点リーダーで文末を省略しているわけではないと言えるだろう。

第二に、伝え手は「発言を和らげる、ぼかす、断言を避ける」という意図をもって三点リーダーを使用していることが挙げられる。

- (5) 「～とか行きたいなあ…」(相手に意見を押し付けないように、相手の反応を見る)
- (6) 「?ってことになるのかな…?」(きつい言い方を避ける)
- (7) 「ひどい…」(言い方を和らげる)
- (8) 「ありがとうございました…!」(目上の人に!を使うとちょっと元気すぎて失礼かもという個人的な懸念があるので…を入れて少し淑やかで落ち着いた感じにしてみる)

(9) 「???だと思ったけど違うかな…」(不安だからほかしておこう)

(5) から (7) のように、伝え手はそのまま発言してしまうと受け手に対してあたりが強くなってしまおうと考え、三点リーダーを付けることで発言を和らげようとしていることがわかる。つまり、伝え手が受け手のネガティブ・フェイスに配慮している (Brown & Levinson, 1987) というのを、三点リーダーを使って表していると言えるだろう。この場合、受け手としては「三点リーダー症候群」という見方のようにネガティブにとらえがちだが、伝え手としてはむしろ相手に配慮するポジティブな意図で接している場合もあり、この点において伝え手と受け手でズレが生じてしまう可能性が大きいだろう。また、(8)、(9) のように伝え手自身の懸念や不安があるために三点リーダーを付けて発言をぼかすという意図も見受けられた。これは自身のフェイスに配慮した形であるといえよう。以上の点より、「発言を和らげる」ための三点リーダーは、伝え手が、受け手や伝え手自身のポライトネスを重視していることが反映された結果であると言えるだろう。

第三に、「考えた時間を表す」が挙げられる。

(10) 「なるほど…それもいいかも！」(LINE / 友人と意見の交換をしているとき / 考えた感じを表している)

(11) 「うーん…それは違うんじゃない？」(LINE / 友人との会話 / 考えて発言していることを表現するため)

これらの用例では、三点リーダーを付けることによって、伝え手が話題内容について時間を割いて考えていることを表現している様子がうかがえる。これは鈴木・津田 (2007) による分類の③タイプ(「行動を表す」)に対応するといえるだろう。打ち言葉において伝え手は、顔文字や絵文字を使用することで非言語的な情報を補っているとされてきたが、三点リーダーも同様の効果を持ちうるということがわかる。また、時間を割いて考えたことを受け手に理解してもらいたいという伝え手の意図は、自己呈示的であるとも言えるだろう。

第四に、「意味や意図はない」場合がある。すなわち、伝え手は特に意味を考えずに三点リーダーを使用しているということである。

(12) 「ええ…」(特に意味はない)

(13) 「ありがとう…!!」(友人とのLINE / 特に「…」をつけた時の効果は考えておらず、なんとなくでつけていた。意味なし。)

(14) 「お互いがんばろね…」(LINE / 友達との会話 / …に特に意味はない)

これらの用例からは、「特に意味がない」「なんとなくでつけていた」など、三点リーダーの使用について特段の主観的な意図を持っていない場合があることがわかる。文章に三点リーダーが付いていると、受け手は何かしらの意図があるのだろうと推察してしまうが、伝え手は全く意図を持たずにただ三点リーダーを使用している場合もあるということだ。

これに関連して、以下の用例のように三点リーダーを単に疑問符(?)の代わりに付しており、伝え手自身が主観的にはそれ以上の意味を込めていない用例も確認できた。

(15) 「もう少しで授業始まるけど大丈夫…」(…を疑問符の代わりにつけている)

これら「意味や意図はない」とする使用例は小説などでは見受けられず、打ち言葉コミュニケーションに特徴的な三点リーダー使用法であると言えるだろう。この用法もまた、三点リーダーに何も意味を込めていない伝え手と、三点リーダーに何かしらの伝え手の意図があるだろうと推測してしまう受け手との間で、コミュニケーションのズレが生じる可能性を高めてしまうと考えられる。

V. おわりに

本研究では、打ち言葉コミュニケーションにおいて、伝え手がどのような主観的感情などをもって三点リーダーを用いているかについて検討した。結果として、三点リーダーは様々な感情を持って使われていること、伝え手は「感情を汲んでほしい」、「発言を和らげる」、「考えた時間を表す」などの意図をもって三点リーダーを使用していること、場合によっては意味や意図なく三点リーダーを使用していることが明らかとなった。

今後の課題として、まず方法論的な部分から述べる。第一に収集方法の改善があげられる。今回の調査では、三点リーダーを使用したときの感情と使用した意図を

区別せず、「気持ちや考え、感情」とまとめた尋ねる方法を採用した。そのため、今回収集できた用例においては、伝え手の感情と意図のうちいずれか一方のみの回答が大半を占めた。「感情」と「意図」を分けて分析したように、三点リーダーを使用した時はどのような感情であったかという点と、三点リーダーを文に付与した意図はどのようなものであったかという点を具体的に分けて尋ねることで、より精緻な分析を行うことができるだろう。

第二に、今回収集できた用例では文の末尾に三点リーダーがつくものがほとんどを占めた。これは調査に関する説明文で示した回答例が、すべて文末に三点リーダーが置かれたものであったことに影響されたためと考えることができる。新實(2019)は、小説において三点リーダーは文末だけでなく文頭にも置かれることや、三点リーダーのみのセリフがあることを指摘している。実際の打ち言葉コミュニケーションにおいてもそのような用例があると考えるのが自然であろう。この点については、文頭、文中、文末のそれぞれに三点リーダーが付く回答例を呈示することで、解消できると考えられる。

第三に、今回の用例は主に大学生から収集したものであった。今後は若者だけでなく幅広い年齢層から用例の収集を行うことで、より正確な実態把握が可能になるだろう。また、年代別の三点リーダー使用率や使用時の感情などの違いを比較することも興味深い知見が得られると考えられる。

本研究は三点リーダーを用いた伝え手の感情のみに着目したため、「三点リーダー症候群」として指摘されるような伝え手と受け手のコミュニケーションのズレを直接確認できたわけではない。しかしながら、そのズレを生じさせる一部の要因について明らかにすることができたと言えよう。今後は、実際のメールやSNSでの二者間のやり取りの分析を行うことで、三点リーダーが使われやすい文脈や三点リーダーに対する受け手の実際の解釈などの検討ができるだろう。また、心理学的実験を行うことによっても興味深い知見が得られると考えられる。具体的には、三点リーダーを使用(多用)すると相手にネガティブな印象を与えやすい可能性があるという点については、会話内で三点リーダーの数を操作することで、伝え手の印象や説得効果などにどの程度の差が生まれるか検討できるだろう。いずれにせよ、打ち言葉コミュニケーションにおける三点リーダーに関する研究は発展の余地が残されており、今後も引き続き検討していく必要があるだ

ろう。

引用文献

- 足立 紳 (2021). 三点リーダー症候群です…。日本経済新聞 2月27日夕刊, 8.
- 荒川 歩・鈴木 直人 (2004). 謝罪文に付与された顔文字が受け手の感情に与える効果 対人社会心理学研究, 4, 135-140.
- Brown, P., & Levison, S. C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press. (田中典子監訳 (2011). ポライトネス 言語使用における、ある普遍的現象 研究社)
- 文化庁文化審議会国語分科会 (2018). 分かり合うための言語コミュニケーション (報告) 文化庁 Retrieved April 28, 2022 from https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afiedfile/2018/04/09/a1401904_03.pdf
- 江川 清・青木 隆・平田嘉男 (編) (1999). 記号の事典【セレクト版】第3版 三省堂
- 時事通信社 (編) (2023). 最新用字用語ブック 第8版 時事通信社
- 女性セブン (2021). 語尾が「…」ばかり「三点リーダー症候群」相手のせいにするズルさも 女性セブン 1月28日号 Retrieved March 4, 2022 from https://www.news-postseven.com/archives/20210115_1627800.html?DETAIL
- 共同通信社 (編) (2001). 記者ハンドブック 第9版 共同通信社
- 三宅 和子 (2005). 携帯メールの話しことばと書きことば 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰 (編) メディアとことば2 (pp.234-261) ひつじ書房
- 文部省教科書局調査課国語調査室 (1946). くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案) 文化庁 Retrieved April 28, 2022 from https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/sanko/pdf/kugiri.pdf
- 日本印刷学会 (編) (2002). 印刷事典 第5版 印刷朝陽会
- 新實 葉子 (2019). 日本語の小説における符号による表現に関する一考察 朝日大学留学生別科紀要, 16, 37-39.
- 野田 春美 (2014). 疑似独話と読み手意識 石黒圭・橋本行洋 (編) 話し言葉と書き言葉の接点 (pp.57-74) ひつじ書房
- 小学館辞典編集部 (編) (2007). 句読点、記号・符号活用辞典。小学館
- 鈴木 信雄・津田 和彦 (2007). 三点リーダー文の感情推定手法 情報処理学会第69回全国大会論文集, 71-72.
- 田中 ゆかり (2014). ヴァーチャル方言の3用法—「打ち言葉」を例として— 石黒圭・橋本行洋 (編) 話し言葉と書き言葉の接点 (pp.37-55) ひつじ書房
- 安井 寿枝 (2006). 『細雪』の表現：発話文に見られる「一」(ダッシュ)と「……」(リーダー)の用法 甲南大学紀要 文学編, 49-69.
- 吉川 陽葵 (2021). Twitterにおける文末記号の使用状況について 京都大学国文学論業, 1-22.

(最終版 2024年1月18日受理)

An Analysis of Ellipsis Points (Three Dots Leaders) Used in Typed Sentences: Feelings and Intentions of Senders

Takuto SAKAI

The purpose of this paper is to clarify feelings and intentions with which senders use the ellipsis points in typed sentences. In a questionnaire study, we asked university students to show their use of the ellipsis points and their feelings and intentions when they use them. We analyzed 117 cases. The results revealed that senders expressed a variety of feelings with the ellipsis-points. In addition, it was found that senders use the ellipsis points with the intention such as “expecting the reader to understand their feelings,” “softening, blurring, or avoiding affirmation,” or “indicating the time spent for thinking.” It was also found that in some cases, the ellipsis points were used without any particular meaning or intention.

Keywords: typed sentence, ellipsis points (three dot leader), feeling, intention, self-presentation